群原	馬工業高等	等再門学科	交 開講年	度 平成30年度	(2018年度)	授業科目	情報工学演	習	
<u> </u>		1 1	. 1 1/10 PTS		(==== 1 /2)	, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	,x _ , /x	_	
17 山 <u>金</u> 科目番号		0056			科目区分	専門 / j			
750年5 授業形態		演習			単位の種別と単				
開設学科			 ステム工学専攻		対象学年	中2	学修単位: 1		
開設期	1	前期	人 / 五工于寻找		週時間数		可 2 1		
加以加 教科書/教	<i>5</i> 7 ★ オ		 が資料を配布		阿可印数	1	1		
担当教員				也,鶴見 智,] 科 教員					
型		人豆主	四 利早,不利 具口	3, 晦兄 百, J 科 教具					
□論理回 □計算機 □計算機	路に関する ハードウェ ソフトウェ 学に関する 論に関する	アに関する アに関する	解くことができる 演習問題を解くこ 演習問題を解くる 解くことができる 解くことができる	ことができる。 ことができる。					
ルーノ	リック		T田+日かりよいない	生しい !! の口中	無洗めれないまし		+ 70 + 1 - 2 1	опф 	
				理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1			ができる。			論理回路に関する基本的問題を解 くことができる。		関する問題を解くこと 	
評価項目2			を解くこと	を解くことができる。 的問題を解		ェアに関する基準 とができる。	を解くことだ		
評価項目3			を解くこと	を解くことができる。		計算機ソフトウェアに関する基本的問題を解くことができる。		ウェアに関する問題できない。	
評価項目4			ができる。			情報数学に関する基本的問題を解くことができる。		関する問題を解くこと 	
評価項目5			ができる。	情報理論に関する問題を解くこと ができる。		情報理論に関する基本的問題を解 くことができる。		目する問題を解くこと	
学科の	到達目標	項目との	関係						
教育方:	法等								
				- k= ±0 24 (88 -+ -> 7		(西+)加強を仮復	ナサスための定羽		
		作業・	大学院等において	_情報上子に関するが	光・開発を行つにル	女は知識で 167年	こじるんめんが	1 <u>~11</u> ノ 。	
概要	め方・方法		大学院等において 教員によるオム ⁻					1011 ノ。	
概要 授業の進	め方・方法			_情報工学に関するが ニバス形式。課題とし				iで1J ノ。	
概要 授業の進 注意点								<u>1℃11 2°</u>	
概要 授業の進 注意点		複数の	教員によるオムニ			き、レポートと	して提出する。	3C1J Jo	
概要 授業の進 注意点		複数の	教員によるオムニ 授業内容	エバス形式。課題とし		き、レポートと 週ごとの到達目	して提出する。	3°C1] J.	
概要 授業の進 注意点		複数の 週 1週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関す	ニバス形式。課題とし する演習(1)		き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー	して提出する。 標 ル代数	3°C1J Jo	
概要 授業の進 注意点		複数の 週 1週 2週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関す 論理回路に関す	ニバス形式。課題とし する演習(1) する演習(2)		き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路	して提出する。 標 ル代数	1C1J Jo	
概要 授業の進 注意点		複数の 週 1週 2週 3週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関う 論理回路に関う 論理回路に関う	ニバス形式。課題とし する演習(1) する演習(2) する演習(3)		過ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路	して提出する。 標 ル代数	3C1J Jo	
概要 授業の進 注意点		複数の 週 1週 2週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関う 論理回路に関う 論理回路に関う 計算機ハード!	ニバス形式。課題とし する演習(1) する演習(2)		き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路	して提出する。 標 ル代数	3C1J Jo	
概要 授業の進 注意点		複数の 週 1週 2週 3週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関う 論理回路に関う 論理回路に関う 計算機ハードで 習(1) 計算機ハードで	ニバス形式。課題とし する演習(1) する演習(2) する演習(3)		過ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路	して提出する。 標 ル代数 ・	3°C1J J o	
概要 授業の進 注意点	由	複数の 週 1週 2週 3週 4週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関う 論理回路に関う 論理回路に関う 計算機ハード・ 習(1) 計算機ハード・ 習(2) 計算機ハード・	ボス形式。課題とし する演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演		週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路	して提出する。 標 ル代数 化方式	3°C1J J o	
概要 授業の進 注意点	由	複数の 週 1週 2週 3週 4週 5週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 論理回路に関語 計算機ハード 習(1) 計算機ハード 習(2) 計算機ハード 習(3) 計算機ソフト・	ナス形式。課題としずる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する演		週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 四則演算の高速	して提出する。 標 ル代数 化方式 理	3で1J J。	
概要	由	複数の 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関う 論理回路に関う 論理回路に関う 計算機ハードで 習(1) 計算機ハードで 習(2) 計算機ソフトで 習(1) 計算機ソフトで 割(1) 計算機ソフトで	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する演		週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 四則演算の高速 計算機の記憶管	して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法	3°C1J J o	
概要 授業の進 注意点 授業計	由	複数の 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算機ハード 習(1) 計算機ハード 習(3) 計算機ソフト 習(1) 計算機ソフト 対象 は かい	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演		週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 四則演算の高速 計算機の記憶管	して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1)	3°C1J J o	
概要 授業の進 注意点 授業計	由	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関う 論理回路に関う 計算機八一ド・ 習(1) 計算機八一ド・ 習(2) 計算機ソフト・ 習(1) 計算機ソフト・ 習(2) 計算機ソフト・ 習(2) 計算機ソフト・ 習(2) 計算機ソフト・ 習(3)	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演		過ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 四則演算の高速 計算機の記憶管 プログラミング アルゴリズムと	して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1)	3°C1J J o	
概要 受業の進注意点 授業計	由	週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関う 論理回路に関う 計算機八ード・ 習(2) 計算機八ード・ 習(3) 計算機ソフト・ 習(1) 計算機ソフト・ 習(1) 計算機ソフト・ 習(2) 計算機ソフト・ 習(2) 計算機ソフト・ 別でである。	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演		題ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 四則演算の高速 計算機の記憶管 プログラミング アルゴリズムと アルゴリズムと の題論理	して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1)	3°C1J J o	
概要 受業の進注意点 授業計	由 1stQ	複数の 週 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算機ハードに 習(1) 計算機ハードに 習(2) 計算機ソフトに 習(3) 計算機ソフトに 習(2) 計算機ソフトに 習(2) 計算機ソフトに 習(2) 計算機ソフトに 習(3) 情報数学に関語	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演		選でとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 四則演算の高速 計算機の記憶管 プログラミング アルゴリズムと アルゴリズムと の題論理 グラフ理論	して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1) データ構造(2)	3°C1J J o	
概要 受業の進注意点 授業計	由	複数の週1週2週3週4週5週6週7週8週9週10週11週12週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算機ハード 習(1) 計算機パード 習(2) 計算り機パード 習(3) 計算り機ソフト 習(1) 計算(2) 計算(2) 計算(3) 計算(3) 計算(3) 情報数学に関語 情報数学に関語	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演		選ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 四則演算の高速 計算機の記憶管 プログラミング アルゴリズムと アルゴリズムと の題論理 グラフ理論 関係と写像,オ	して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1) データ構造(2)	3°C1J J o	
概要 受業の進注意点 授業計	由 1stQ	複数の週1週2週3週4週5週6週7週8週9週10週11週12週13週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算機ハード・ 習(1) 計算の機パード・ 習(2) 計質(3) 計算(4) 計算(4) 計算(2) 計算(2) 計算(3) 計算(3) 計算(3) 情報数学に関語 情報数学に関語 情報理論に関語	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演 ウェアに関する演		選ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 内側演算の高速 計算機の記憶管 プログラミング アルゴリズムと アルゴリズムと の題論理 グラス里論 関係と写像、オ エントロピー、	世代 世代 世代 世代 世代 でででである。 一下では、 でである。 では、 でである。 では、 では、 でである。 では、 でである。 では、 でいる。 でい。 でいる。	3°C1J J o	
概要 受業の進注意点 授業計	由 1stQ	道 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 13週 14週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 論理回路に関語 計算(1) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(4) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(2) 計算(3) 情報数学に関語 情報数学に関語 情報理論に関語	する演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを		き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 ごりずらいでする。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	世代 世代 世代 世代 世代 でででである。 一下では、 でである。 では、 でである。 では、 では、 でである。 では、 でである。 では、 でいる。 でい。 でいる。	3°C1J J o	
概要 授業の進 注意点 授業計	由 1stQ	適 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算機ハード・ 習(1) 計算の機パード・ 習(2) 計質(3) 計算(4) 計算(4) 計算(2) 計算(2) 計算(3) 計算(3) 計算(3) 情報数学に関語 情報数学に関語 情報理論に関語	する演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを		選ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 内側演算の高速 計算機の記憶管 プログラミング アルゴリズムと アルゴリズムと の題論理 グラス里論 関係と写像、オ エントロピー、	世代 世代 世代 世代 世代 でででである。 一下では、 でである。 では、 でである。 では、 では、 でである。 では、 でである。 では、 でいる。 でい。 でいる。	3°C1J J o	
概要 の進注 意点 注	由 1stQ 2ndQ	道 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 11週 13週 14週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 論理回路に関語 計算(1) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(4) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(2) 計算(3) 情報数学に関語 情報数学に関語 情報理論に関語	する演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを		き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 ごりずらいでする。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	世代 世代 世代 世代 世代 でででである。 一下では、 でである。 では、 でである。 では、 では、 でである。 では、 でである。 では、 でいる。 でい。 でいる。	3°C1J J o	
概要 受業の進注 意点 授業計 期	自 1stQ 2ndQ	複数の週1週2週3週4週5週6週7週8週9週10週11週12週13週14週15週16週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算(1) 計算(2) 計質(3) 計質(2) 計習(3) 計質(2) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 情報数学に関語 情報数学に関語 情報理論に関語 情報理論に関語	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演	て課された問題を解	き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー 組合を回路 高度順序回路 の別演算の記憶管 プログラミング アルゴリズムと アルゴリズムと のの記述理理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記	に 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1) データ構造(2) ートマトン 相互情報量 通信路符号化		
概要 の進注意点 授業計 前期 前期	自 1stQ 2ndQ	適 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 論理回路に関語 計算(1) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(4) 計算(2) 計算(3) 計算(4) 計算(2) 計算(3) 情報数学に関語 情報数学に関語 情報理論に関語	する演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを ウェアを		き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 順序回路 高度順序回路 ごりずらいでする。 では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	に提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1) データ構造(2) ートマトン 相互情報量 通信路符号化	会計	
概要の進注意点	自 1stQ 2ndQ	複数の週1週2週3週4週5週6週7週8週9週10週11週12週13週14週15週16週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算(1) 計算(2) 計質(3) 計質(2) 計習(3) 計質(2) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 情報数学に関語 情報数学に関語 情報理論に関語 情報理論に関語	さる演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演	て課された問題を解	き、レポートと 週ごとの到達目 論理関数とブー 組合を回路 高度順序回路 の別演算の記憶管 プログラミング アルゴリズムと アルゴリズムと のの記述理理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述理 グラミング アルゴリズムと のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記述 のの記	に 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1) データ構造(2) ートマトン 相互情報量 通信路符号化		
概要 の進注 授業計 前期 証 一個 割 一個	alstQ andQ and	複数の週1週2週3週4週5週6週7週8週9週10週11週12週13週14週15週16週	教員によるオムニ 授業内容 論理回路に関語 論理回路に関語 計算(1) 計算(2) 計質(3) 計質(1) 計習(2) 計質(2) 計質(3) 計質(2) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 計質(3) 情報報数学に関語 情報理論に関語 情報理論に関語 情報理論に関語	する演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ロールー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	,て課された問題を解	選ごとの到達目 論理関数とブー 組合せ論理回路 高度順序回路 高度順序の高速 計算機の記まが アルゴリズムと アルゴリズムと の題記理 関係とトロピー, 情報原正符号 ポートフォリ	世界 で表して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1) データ構造(2) ・ トマトン 相互情報量 通信路符号化	合計	
概要 授業の進 注意点 授業計	画 1stQ 2ndQ 合 試力 0	複数の週1週2週3週4週5週6週7週8週9週10週11週12週13週14週15週16週	表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表 表	する演習(1) する演習(2) する演習(3) ウェアに関する演 ウェアに関する うる うる うる うる うる うる うる うる うる うる うる うる うる	で課された問題を解しています。 ・で課された問題を解しています。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 退ごとの到達目論理関数とブー組合せ論理回路。 高度順序回路。 高度順序の記憶管プログラミングをアルゴリズムとの関連の記憶管プログラミングをアルゴリズムとの問題である。 対しているとのでは、カー・「一般では	世界 で表して提出する。 標 ル代数 化方式 理 技法 データ構造(1) データ構造(2) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	合計 100	